# 介護ロボット開発・導入における
# 近畿経済産業局の取り組み

近畿経済産業局
次世代産業・情報政策課

# 関西介護サービスイノベーション研究会について

（背景）

## ユーザーから見た課題

**○使い勝手が悪い**
（例：準備等ロボットを使うことで逆に時間が掛かる、操作が複雑で覚えられない）

**○使う必要性・有用性が低い**
（例：人手の方が早い、忙しすぎて慣れないロボットを使いたくない、どのロボットがニーズを満たしているのか分からない）

**○高額である、費用対効果が低い**
（例：コスト削減等に繋がらない、あるいは不明確、 ３対１の規制等があり、効率化のメリットを享受出来にくい）

**○要介護者へのネガティブインパクトの恐れ**
（例：機器活用によるADL低下リスク、要介護者の心理的不安、事故リスク）

## サプライヤーから見た課題

**○ニーズの把握が難しい**
（例：経営層や現場の階層毎でのニーズや認識が異なる、要介護者の状態・環境による具体的なニーズが細分化されている

**○ビジネスリスクが高い**
（例：市場規模が小さい、良いものを作っても売れない、投資回収に時間が掛かる、規制かインセンティブがないと売れない）

**○現場でのテクノロジーに対する抵抗感**
（例：人手重視、ロボットに関する情報不足や理解不足、IT等のテクノロジーを活用することに慣れていない）

**○技術的な制約**
（例：自社シーズのみで多様なニーズに応えることは困難）

**作業単体のニーズではなく、施設全体としての効率性や現場がテクノロジーを主体的に使いこなす環境整備が必要**

## 関西介護サービスイノベーション研究会

- 関西の有する介護分野の産官学の集積を活用し、(1)課題先進国としての同分野での課題解決のための様々なイノベーション創出の仕組みの構築や次世代型介護サービスモデルのパイロットプロジェクト形成及び(2)今後ますます拡大する在宅向けの新たなサービス等についての検討を行う。

**①大学・試験機関・病院**
○大阪工業大学
○大阪大学大学院
○産総研
○兵庫県立リハビリテーションセンター

**④国・自治体等**（オブザーバー）
○近畿厚生局
○神戸市

**②介護事業者**
○オリックスリビング
○スーパーコート
○青山ケアサポート
○(公社)大阪介護老人保健施設協会関連

**③大手企業**
○パナソニック
○大和ハウス工業
○コニカミノルタ

**事務局**
○大阪市都市型産業振興センター
○i-RooBO Network Forum（幸和製作所、スマイル・プラス　等）
●近畿経済産業局

# 関西介護サービスイノベーション研究会について(2)

- **目的：**関西の有する介護分野の産官学の集積を活用し、(1)課題先進国としての同分野での課題解決のための様々なイノベーション創出の仕組みの構築や次世代型介護サービスモデルのパイロットプロジェクト形成及び(2)今後ますます拡大する在宅向けの新たなサービス等についての検討を行う。

## 取り組みの方向性

**受入れ側の体制整備**
施設側のロボット等への理解を深め、
人材育成や体制整備等を図る

**濃密な摺り合わせ機能の整備**
ユーザーオリエンテッドの製品開発に向けた、
経験の豊かな専門家との連携

**パイロットプロジェクトの形成**
テクノロジーの導入効果の見える化や
ショーケース化による普及促進

**中長期的な課題への対応（在宅介護等）**

**次代を睨んだイノベーティブな介護サービスモデルの形成**
**今後の我が国の介護分野における社会課題の解決**

# 介護ロボット開発・導入における当局の取り組み

**１）受入れ側の体制整備**

介護ロボット等のお試し等から、施設側のロボット等への理解を深め、また人材育成や体制整備等を通し、介護ロボットが導入しやすい環境整備を目指す。

（実施した取り組み例）

- ATCエイジレスセンターでの介護ロボット体験セミナー（H29.7.28）
- 介護ロボット等導入における先進施設の事例紹介
- 既存機器・ITサービスの施設お試し実証

（今後の取り組み例）

- 介護事業者によるサービス・オペレーションの見直し
- 現場人材の意識向上に向けた取組み（介護事業者向けセミナー開催、介護事業者によるQCサークル実施）
- 大学と連携した未来の介護経営のあり方についての検討

**２）濃密な摺り合わせ機能の整備**

ユーザーオリエンテッドの製品開発に向け、経験の豊かな専門家や介護ロボットに習熟した介護事業者と連携し、開発の初期段階から摺り合わせを行う。

（実施した取り組み例）

- 大学、病院、安全性認証機関等の多様な知見によるアドバイス

（今後の取り組み例）

- 人間行動観察手法等を活用した新たな現場ニーズの掘り起こし
- 大学等との連携によるデザイン思考を活用したものづくり開発

**３）パイロットプロジェクトの形成**

介護ロボット等の普及に向けては、導入効果の見える化やショーケース化が重要であり、実際に運営されている施設にて介護ロボット等を活用した「高効率な施設」「高い復帰率と顧客満足度のオペレーション」の実現を目指す。

（今後の取り組み例）

- 2020年までにパイロット施設（リノベーション1施設、建替1施設）の整備に向けた検討・調整
- 2020年ワールドロボットサミットの機会を活用した国内外への情報発信

**次代を睨んだイノベーティブな介護サービスモデルの形成**
**今後の我が国の介護分野における社会課題の解決**